

2007年版

後援会討議資料(室内用)

感じる、
走る、
創りだす。



岸本たいじ きしもと 泰治

徳島はもっともっと良くなる

なぜ今が重要なのか

今や国の動きは、「三位一体改革」「国から地方へ」また「道州制の議論」など、まさに地方の時代、地方分権へと進んでいます。そして、景気は、日本全体としてはいざなぎ超え、戦後最長の景気回復と言われていますが、地方においてはなかなかその実感が無いというのが現状ではないでしょうか。

こうした経済環境の中、地方分権という名のもと私たちは自立していかなければなりません。これまで国にその財源の多くを頼ってきた徳島県においても「自立(ひとりだち)」が試されるのです。

今、行政が果たすべき役割は大きいのです。

経済発展

数年前、私の勤めていた会社は、民事再生法の適用を受けました。再生のため、経費削減や業務改善がなされました。しかし、改善はなされても、不安や焦りは一掃されません。削減や改善だけでは不安を解消できないのです。結果を出すこと、収益を上げ成長軌道へと乗せることが、自信へとつながり不安や焦りを払拭することができるのです。

県の経済や財政においても同様ではないでしょうか。現状のまま何もしなければ、高齢化が進み、働く担い手も少なくなっていくます。無駄を省く、きりつめるだけでは行き詰まり、必要なものにも手を打つことができなくなるでしょう。

財源を確保するために経済発展に取り組む必要があります。では、徳島県の経済発展に県行政がどう関われるのでしょうか。もちろん消費税率や所得税率を変えたりはできません。国の仕事、県の仕事を見極め、国にいうべきことは言う、そして県でできることは全力を挙げて行うことが大切です。

そこで、県でできることとして、私は次の三つを柱に考えています。

第一に、中小企業や地場産業、農林水産業の振興のために、事業主のマンパワーに頼るだけでなく、県として制度融資や税制上の優遇措置、特例措置などをもっと活用できるようにしたいと思います。頑張る企業や生産者のためにインセンティブが与えられるような仕組み、政策が必要です。

第二に、産官学が連携を密にし、新たな価値創造・商品差別化へ向けた取り組みを行っていく必要があります。現在でも多くの成功事例がありますが、さらに促進したいと思います。また、こうした連携について、次のようなことを耳にします。異分野の専門家同士が話し合うと、

(例えば実務家と研究者)相手の言っていることが理解できず必要以上のエネルギーや時間を使ってしまふ、つまり、お互いが何を求めているのか、また、どこに行けばそれが解決できるのか、がわからないのです。そうです、ここにパイプ役、一種の通訳が必要なのです。私自身も可能な限りパイプ役を担っていきます。

第三に、従来のような考え方でお金を使うばかりが能ではありません。国も県も大変な借金を抱えています。いかにお金を使わずに知恵を使って経済発展につなげていくかということが求められています。そのためには、県行政に携わっている皆さん、公務員の皆さんが知恵を出し合う仕組みを考えていきます。みんながいろいろな事業のアイデアを出し合い、なるべく経費をおさえて実行に移す、更に工夫を重ねて行くという具合です。

「皆があきらめずにチャレンジする。そして正当に報われる。」そんな社会を目指していきたいと考えています。

安心安全・福祉・環境・教育

経済発展とともに不安感が薄らいでいくと安心安全、福祉や環境問題のなかには、自然と改善されていくものもあるでしょう。

だからといって、これらの問題については、景気がよくなるまで手をつけなくても良いというものではありません。むしろ優先的に取り組まなければならないものが数多くあります。

第一に、安心安全対策です。災害は景気が良くなるまで待ってくれません。今県が進めている防災や治安対策等もさらに加速していく必要があります。

例えば、震災対策で一番必要なのは、みなさんが住んでいる住宅の耐震化です。しかし、大変なお金をかけて補強工事をするということに二の足を踏むという方も大勢いらっしゃると思います。どうしたらいいのでしょうか。家全体を工事するのではなく、「この部屋は大丈夫」という部屋を造るような改修をすればいいのでしょうか。経費は相当安くなると思います。そしていざというときには、その部屋に逃げることによって一番大切な命は守られるでしょう。このようにできることから改善を行っていくのです。

安心安全を確保するため、行政としてもこうした実現可能な対策から考えていきたいと思っています。

第二に、子供たち、高齢者や障害者の方々や夢や希望をもてるような福祉や環境・教育の仕組みを作りたいと考えています。

最近、医療も福祉も制度改正が盛んに行われています。例えば、昨年「障害者自立支援法」が施行されました。しかし、現場は大変な混乱をしていると聞きます。利用者の負担額が急激に上がったこと、国や県、市町村の役

割分担が変わったことが原因でしょう。もちろん、今までのままでは財政を大きく圧迫することは間違いありません。しかし、本当に困っている人、経済的理由で施設を利用できなくなる人に対しては温かい手を差し伸べる、それが血の通った行政だと思います。

安心安全・福祉や環境・教育にきちんとお金を使う。これらはまた経済にとってもプラスになることでしょう。

さいごに

私は皆さん同様、徳島県の未来を築く一員でありたいと考えています。

県民の皆様とともに感じ、走る、そして割りだしていきたく考えています。

知恵を出し合って徳島県を輝く県としていきましょう。



応援のこぼ

岸本泰治君に期待しています。

岸本泰治君のお父さんは、9期36年目を迎えた徳島市議会議員です。

その政治姿勢は「市政一筋、常に市民の立場から物事を判断しよりよい方向を模索する」また、その人柄は「人を分け隔てすることなく誰に対しても親身に接する」お父さんはそんな身近な政治家です。そのお父さんを見て育った岸本泰治君はまさにその性質を受け継いだ人だと言えるでしょう。また、彼が民間企業出身だと言うことも新たな発想や手法を県政にもたらしてくれることだと信じています。今や県政にも民間企業のサービスやスピードが求められています。必ずや県政をリードしてくれることと思います。

機が熟した今、大いに期待しています。

岸本泰治後援会長
勝間 八郎

実行宣言

県民の皆様とともに感じます。

- ・県民の皆様視点で感じ取り行政をすすめてまいります。
- ・県民の皆様幸せを一番に考えます。
- ・県民満足度アップ、徳島県を一番輝く県にしてまいります。

経済発展←民間企業の経験を活かして走ります。

- ・中小企業や地場産業の成長を応援し、雇用の場を確保してまいります。
- ・チャレンジする企業の相談窓口となって産学官のパイプ役を担い、すばやく行動します。
- ・農林水産業の振興のため、ブランドづくりや高付加価値化、省力化に取り組めます。

安心・安全な生活を割りだします。

- ・県民の皆様が安心して暮らせるよう、防災や治安対策を推進します。
- ・環境に配慮し、人と自然にやさしく持続可能で快適な生活環境づくりを目指します。
- ・子供たち、高齢者や障害者の皆様や夢や希望を持てるやさしいまちづくりを進めます。

岸本泰治 プロフィール

昭和32年6月1日生(49歳) 岸本安治(徳島市議会議員)の次男

略歴 国府小・国府中学校 卒

(少年サッカー・バスケットボール部)

徳島市立高校 卒 同志社大学経済学部 卒

(株)徳島そごう入社(人事教育課・お得意様企画など)

・徳島そごうオープンから民事再生法適用、そして再生計画を達成する。

・2001年9月より3年半、そごう大宮店勤務

(株)そごう退職(2006年4月)

家族 妻・二男 趣味 読書

所属 自由民主党

連絡先 国府事務所 徳島市国府町中636 TEL 088(642)1745

安宅事務所 徳島市安宅2丁目6-50 TEL 088(654)2143